

科目名	応用ゼミナール2	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	佐々木 宏之		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-32-B-2-410037	経営情報学部C：情報や情報システムの利活用方法を習得し、仕事や生活に活用できること			
授業の目的・テーマ	心理学研究を進めるための基礎スキルの習得				
内容	<p>心理学研究を進めるための基礎スキルとして、英語論文の読解力と統計処理能力が必須となる。</p> <p>自分の研究分野の研究動向を把握するためには国際専門誌の英語論文を読むことが欠かせない。また、実験・調査で得られたデータから仮説を検証するには統計学的な根拠が必要になる。</p> <p>そこで、これら研究活動に必要な基礎スキルを養うため、前半で英語論文抄読、後半でExcelを使った統計処理の課題解決型学習を行う。</p> <p>①英語論文抄読 社会心理学に関する英語論文</p> <p>②Excelによる統計解析入門 t検定・・・2つの平均の比較 カイ二乗検定・・・クロス集計表の独立性検定 相関分析・・・変数間の関係性の検定 一元配置分散分析・・・3つ以上の平均の比較 二元配置分散分析・・・2要因の主効果と交互作用の検定 テキスト解析・・・テキストデータの計量分析</p> <p>ディプロマポリシーとの関連：情報技術の利活用方法を修得し、仕事や生活に活用できること。 【毎回予習・復習に合わせて4時間相当の課題を提出します】</p> <p>【新型コロナウイルス対策の授業1回分短縮に応じて、レポートを提出します】</p> <p>①英語論文抄読 1～3文ずつ交代で英文和訳を発表する。頻出専門用語を確認し、心理学の研究法を解説する。 ②Excelによる統計解析入門 必携パソコンを用いて各自データ分析し、分析結果をレポート提出する。</p>				

学修到達目標	英文の読解力が身につく。 Excelを使った統計処理が身につく。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	1時間（配布英語論文読解）
【復習】時間・内容	1時間（学んだ統計処理のおさらい）

成績評価	
評価基準・方法	論文抄読に対する取り組み（60%）、分析結果レポート（40%）
フィードバック方法	発表内容に対して、コメント、解説を加える。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	プレゼンテーション／実習、実技、実験、フィールドワーク

教科書/参考書	「英語で学ぶ社会心理学」有斐閣ブックス 「Excelで今すぐはじめる心理統計」講談社 「社会調査のための計量テキスト分析」ナカニシヤ出版
---------	--

受講上の留意点等	1 年次前期科目「統計学」を復習すること。 英語論文抄読は論文和訳の予習が必須である。
JABEE	

科目名	応用ゼミナール2	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	内田 亨		実務経験の有無		○
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-32-B-2-410037	経営情報学部D：自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表できること			
授業の目的・テーマ	経営学の学問修得と実践的人材育成				
内容	<p>本ゼミナールでは、グループワークを通して、経営学の学問の修得および社会人として通じるような実践的な人材を育成します。そのために次のことを目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニケーション力の醸成</li> <li>2. 自分らしさの企画の創造と運営</li> <li>3. 実践することによって地域に貢献できたという実感</li> </ol> <p>上記の目標のために、プロジェクトを実施します。 プロジェクトの事例としては次のようなものがあります。実施したプロジェクト報告書や写真は研究室に蓄積されていますので難しいことはありません。下記のうちひとつもしくは新たなプロジェクトを考えています（先方あってのものなので未定です）。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 笹山じょうもん市（十日町市中条地区での祭りの企画・運営） <a href="http://www.nuis.ac.jp/issue/ebook/vol185/html5.html#page=5">http://www.nuis.ac.jp/issue/ebook/vol185/html5.html#page=5</a></li> <li>2. 他大学との合同ゼミ発表大会（昨年のテーマは「遠隔授業を含めた今後の大学の講義のあり方」）</li> <li>3. 地域生活支援施設桜井の里あかつかの家での夏祭り（ゲームコーナーでの運営およびインタビュー調査） <a href="http://www.nuis.ac.jp/issue/ebook/vol184/html5.html#page=5">http://www.nuis.ac.jp/issue/ebook/vol184/html5.html#page=5</a></li> <li>4. 笹山縄文の世界展（写真展の企画・運営・アンケート調査） <a href="http://www.nuis.ac.jp/pub/p01_1446109328341.html?c=030">http://www.nuis.ac.jp/pub/p01_1446109328341.html?c=030</a></li> <li>5. 地（知）の拠点大学における地方創生推進事業（「サブカルチャーを通じた新潟の魅力発信」プレゼン）</li> </ol> <p>以上のようなグループワーク、フィールドワーク、外部交流をします。</p>				

学修到達目標	本ゼミナールを受講すれば、問題発見能力の醸成と自律的、計画的な企画書作成を行うことができます。 また、洞察力・考察力を育成することにもなります。
実務経験との関連性	セールスプランニングの業務における新製品説明の経験を活かし、プレゼンテーション方法について解説。

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間。前週配布資料の予習
【復習】時間・内容	2時間。資料の不明点の理解をする。

成績評価	
評価基準・方法	①ディスカッションへの参加度（40%）、②企画書の出来栄え（20%）、③企画の実践および対象先からの評価（40%）
フィードバック方法	企画書等を毎回添削します。 プロジェクトにおける先方からの評価を講評します。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／実習、実技、実験、フィールドワーク

教科書/参考書	なし。
---------	-----

受講上の留意点等	<ol style="list-style-type: none"><li>(1) 「自分はどこに行っても通用する人間になるのだ」という向上心と信念を持った学生を歓迎します。</li><li>(2) ゼミのメーリングリストを作り、その中で出欠や情報交換をしていきます。</li><li>(3) 井の中の蛙にならないように、学外の人・組織と交流しますので、積極的に参加してください。</li><li>(4) 報告書作成が必須なので、文章力をつけるよう努力してください。</li><li>(5) ゼミ生には、セルフ・マネジメントと、積極的にディスカッションに参画することが求められます。</li><li>(6) 本ゼミナールを通して、社会に通用するスキル・能力・思考力を身につけるという意識を持ってください。</li><li>(7) 土曜日曜に学外へフィールドワーク、外部交流をすることもあるので承知しておいてください。</li></ol>
JABEE	

科目名	応用ゼミナール2	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	今井 裕紀		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-32-B-2-410037	経営情報学部A：健全な社会生活を営むための常識を持ち、他者と協力して問題解決にあたることができること			
授業の目的・テーマ	人間行動の分析の基礎の習得と課題解決力の習得				
内容	<p>本授業では、演習・グループ活動を通じて、人間行動の分析の基礎を習得し、実践的な課題解決力を身につけることを目指します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>統計実習 <ol style="list-style-type: none"> <li>アンケート調査の手法（質問紙調査票作成、データのコーディング等）</li> <li>基礎的な統計解析手法</li> </ol> </li> <li>事例分析演習・グループ活動 <p>次の中からいくつかを実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>事例分析演習 <p>実際の経営事例にもとづいて作成されたケース教材を用い、グループで議論する。</p> </li> <li>ビジネスゲーム型演習 <p>経営状況をモデル化したケースを用い、集団での意思決定や合意形成等の演習を行う。</p> </li> <li>地域連携活動 <p>地域と連携した活動を行う。ただし適切な連携先、活動内容が見込まれる場合に実施する。社会状況や連携先の状況によっては実施しないこともある。</p> </li> <li>グループでの調査分析プロジェクト <p>グループ毎に何らかの調査課題を設定して、調査分析を行う。</p> </li> </ol> </li> <li>レポート・発表課題 <ol style="list-style-type: none"> <li>学んだ内容に関するレポート課題を出題します。</li> <li>事例分析演習・グループ活動ではグループ発表を行います。</li> </ol> </li> </ol>				

学修到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データ分析手法の基礎を身につける。</li> <li>・課題解決力の基礎を身につける。</li> </ul>
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統計実習の配布教材を読み、分析の準備をする。</li> <li>・グループワークの準備をする。</li> </ul> 必要時間数：2時間
【復習】時間・内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で紹介した統計手法を理解する。</li> <li>・グループワークの実施状況を振り返り、改善策を考える。</li> </ul> 必要時間数：2時間

成績評価	
評価基準・方法	クラス参加度・ディスカッション貢献度（50%）、レポートおよびプレゼンテーション（50%）
フィードバック方法	授業中に講評を行う。あるいはポータルサイトで講評を掲示する。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／実習、実技、実験、フィールドワーク

教科書/参考書	統計実習は配布資料を用います。 事例分析に用いるケース教材費（1,000円程度）を授業中に回収します。
---------	--



受講上の留意点等	<p>このゼミナールでは積極的に意見を表明すること、グループで共同作業を行うことが求められます。 地域連携活動をする場合には、1回か2回程度課外活動を行うことがあり、交通費等の実費がかかります。</p>
JABEE	

科目名	応用ゼミナール2	単位数	2単位	学期		後期	
担当教員	小宮山 智志		実務経験の有無		×		
科目区分	カリキュラムマップを表示する		関連するディプロマポリシー				
ナンバリング	X-32-B-2-410037		経営情報学部C：情報や情報システムの利活用方法を習得し、仕事や生活に活用できること				
授業の目的・テーマ	アイデアを生み出す方法を身に着けよう！						
内容	<p>大学は“自分の頭”と“他人の頭”を利用して、新しく正しく社会的意義のある知識を創造する（＝研究する）ところです。高校までは自分の頭で考えることを身に着けてきました。もちろん自分の頭で考えることは大切ですが、仕事となると自分だけで目的の95%を達成することよりも、他人と協力して100%、いや今まで以上の成果を出すことを求められるようになります。</p> <p>この演習では集団で思考することを学びます（“ブレインストーミング”と呼びます）。新しい知識を作り出すためにはアイデアが必要です。各自の頭の中にある知識をすべて出し尽くし、さらにそれらを結合させ、アイデアを作り出すことを徹底して学んでいきます。</p> <p>そして私たちが考えたアイデアを、実際に地域で試行してみましょう。いままで先輩たちが試行してきた例の一部を紹介します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポストコロナ社会で私たちができること</li> <li>・先進的な地域をSNSで発信：全国に先駆け、地域で農業法人化、農家民泊、6次化などを始めていた地域を調査し、活動の発信・販売促進のお手伝いをしました。また地域の小学生とも協力して、継続して発信していく仕組みも考えました。</li> <li>・内野町おこしのための「1日限定の喫茶店」を開店：地域の食材を使い内野町をアピールすること、そして内野町に若者を呼び込むことを目指しました。</li> <li>・地酒試飲会：地域の地酒を試飲してもらい、評価をもらい、そのような人びとが、どの種類のお酒を好むか調査しました。</li> <li>・地域の食材を使った新商品の開発：地域の祭りで、自分たちがアレンジした、地域の伝統食を販売しました。</li> <li>・パブリックビューイングの開催：2014年ワールドカップのパブリックビューイングを新潟国際情報大学で開催しました。地域の方にも大勢ご参加いただきました。</li> <li>・みずき野飲食店マップ作成：みずき野の飲食店にご協力頂き、飲食店マップを作成しました。</li> <li>・ペーパークラフト作成：オリジナルなペーパークラフトを作成し、地域の祭りで販売しました。どのようなデザインのもの好まれるか、調査しました。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動内容はグループワークで相談しながら決定します。</li> <li>・毎回、数名でグループワークを行います。</li> <li>・実際に地域での活動を通して、アイデアを実践します（コロナ禍の状況によっては学内での活動、または提案にとどめます）。</li> </ul>						

学修到達目標	活動内容を口頭発表する準備をします。発表練習をとおして、プレゼンテーションを学びます。発表内容をレポートにまとめることで、レポートの書き方などを学びます。また全体をとおして“研究する”とは何かを学びます。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	約2時間：調査・実験などの課題を行なってもらいます。
【復習】時間・内容	約2時間：調査・実験などの課題のまとめを行ってもらいます。

成績評価	
評価基準・方法	各回のグループワークでの活躍（50%）と、レポートで評価します（50%）。グループワークでアイデアを出すことはとても重要です。それと同時に、各自でアイデアを文章にまとめる力も養います。どちらもイーブン（50%ずつ）で評価します。グループワークを通して、フィードバックします。
フィードバック方法	共有フォルダで各自のレポートへのコメントを共有し、さらにグループワークを通して、フィードバックします。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	グループワーク

教科書/参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界思想社編集部編、2018『大学生 学びのハンドブック』世界思想社。</li> <li>・映像資料 NHK、2011『スタンフォード白熱教室』など（適宜配布）。</li> </ul>
---------	--

受講上の留意点等	<p>これから社会は、変化していきます。そして変化に適応した新しい知識を生み出し続けることを求められます。大変なようですが、方法を身に着ければ、様々な人々がそれぞれの視点を生かして活躍できる社会でもあります。周りの人の力を引き出し、そして自分自身の能力を開花させたい人は、ぜひご検討ください。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・集団で活動します。ゼミにおいて無断欠席は認めません。全員に迷惑が及びます。可及的速やかに連絡してください。</li><li>・虚偽の申告をした方は、単位の取得はできません。</li></ul>
JABEE	

科目名	応用ゼミナール2	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	佐々木 桐子		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-32-B-2-410037	経営情報学部C：情報や情報システムの活用方法を習得し、仕事や生活に活用できること			
授業の目的・テーマ	「データ分析力」と「コミュニケーション力」の育成				
内容	<p>このゼミナールでは、前半は、需要予測に関する様々な手法を適時的確に使い、得られた結果を正しく解釈し、適切に表現できる能力を育成します。後半は、ビジネスゲームを通じて、より実践的なデータ分析能力、他者とコミュニケーションをとりながら協調して作業したり、グループをまとめることができる能力を養います。授業内容は以下のとおりです（前半は個別課題、後半はグループ課題になります）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・需要予測（直線回帰、指数曲線、移動平均、指数平滑など） 個別に演習課題に取り組み、成果を発表します。</li> <li>・ビジネスゲーム グループで演習課題に取り組み、成果を発表します。</li> </ul> <p>授業ではExcel を使用します。基本的な Excel の使い方（表やグラフの作成、数式等）から丁寧に指導しますので、苦手意識を持った学生でも、じっくりと理解を深めることができます。</p>				

学修到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な手法を適時的確に使い、得られた結果を正しく解釈し、適切に表現することができる。</li> <li>・コミュニケーションをとりながら協調して作業したり、グループをまとめることができる。</li> </ul>
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間
【復習】時間・内容	2時間

成績評価	
評価基準・方法	毎回の授業への取組（20%）、成果物（課題や発表：80%）により評価します。
フィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の提出後に解説をおこないます。</li> <li>・発表会の後に講評をおこないます。</li> </ul>

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	グループワーク／プレゼンテーション

教科書/参考書	最初の授業で資料を配付します（購入の必要はありません）。
---------	------------------------------

受講上の留意点等	<p>今は苦手意識があっても構いません。 「データ分析力」、「コミュニケーション力」を養いたいたい、と思っている学生を歓迎します。 また、孤立することなく、お互いが学びあい、理解を深めあえる環境を大事にしていきます。</p>
JABEE	

科目名	応用ゼミナール2	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	木村 誠		実務経験の有無		○
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-32-B-2-410037	経営情報学部D：自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表できること			
授業の目的・テーマ	「日本企業のデジタル化」（角川新書）輪講から大学生の読解力、文章作成の能力を向上させる				
内容	<p>伝統的ゼミナールの運営手法である輪講担当箇所のレジュメ（要約）を通じた共通理解と日本企業のデジタル化についての肯定あるいは否定についての議論を行う。</p> <p>各回の輪講担当者が行うこと</p> <p>? 担当箇所の全体内容を容易に把握できるレジュメ作成を心がける。</p> <p>① 担当箇所のレジュメはA4サイズ2頁以内に収める。</p> <p>② 章内タイトルと頁（記述箇所）を明示する。</p> <p>③ 箇条書きで、矢印を多用する。特に時期や数量を抽出する。</p> <p>④ レジュメの補足資料として、スライド（図、表、グラフ、写真、動画等）を作成する。</p> <p>（※）個人の意見は書かない。内容の要約に専念する</p>				



学修到達目標	レジュメ作成を通じて、大学生としての読解力、文章作成の能力を向上できる。手元のレジュメと投影するパワーポイント（スライド）の使い分けができる。レジュメの様式に慣れることで将来、報告書等の作成の際に大いに役立てる。
実務経験との関連性	米国製ソフトウェア販売代理店業務（営業企画推進）の経験を活かし、日本企業のデジタル化について解説。

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	輪講箇所の通読。輪講担当者はレジュメ作成。これらの確認作業に2時間を要する。
【復習】時間・内容	レジュメの見直し。週次課題レポートの作成のための調査、思考、記述と提出。これらの確認作業に2時間を要する。

成績評価	
評価基準・方法	週次課題レポート（40%）、期末課題レポート（30%）、輪講担当（30%）の総合的評価を行う。
フィードバック方法	Slackの「help-応用ゼミナール2」チャンネルでインタラクティブに対応する。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	ディスカッション、ディベート

教科書/参考書	藤本隆宏『現場から見上げる企業戦略論 デジタル時代にも日本に勝機はある』 角川新書、2017年、1122円。
---------	--

受講上の留意点等	前提科目として「経営情報論」受講が望ましい。
JABEE	

科目名	応用ゼミナール2	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	藤田 晴啓		実務経験の有無		○
科目区分	カリキュラムマップを表示する		関連するディプロマポリシー		
ナンバリング	X-32-B-2-410037		経営情報学部A：健全な社会生活を営むための常識を持ち、他者と協力して問題解決にあたることができること		
授業の目的・テーマ	<p>上記「関連するディプロマポリシー」より以下の経営学科のディプロマポリシーが本ゼミナールにふさわしいので、以下のとおり修正します  「人間の特性および人間活動、社会環境の理解に基づいた、地域の問題解決を提案・支援・実現できる人材育成」を目標に、以下のテーマ・内容を設定します</p> <p>テーマ：ディープラーニングによるヒト顔合成やその他生成コンテンツによる心理テスト  副題：「ディープラーニングモデルが作成した本物そっくりの合成物にヒトはどのように反応するか？」</p> <p>本応用ゼミナールでは以下の全部のテーマ・実習の体験を提供します</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 GANs（敵対的生成ネットワーク）によるヒトの顔合成・ヒトの顔画像からアニメ画像へ変換・それらを使った心理テスト</li> <li>2 脳科学のアプリケーション：ホロレンズによる複合現実体験とコンテンツ作成：これが本物の3D！</li> <li>3 生成ネットワークによる審美的世界を創造するDeep Dream、名画のスタイルであなたが撮影した風景を代えるスタイル変換</li> <li>4 地域経済分析システムを使った新潟県の人口減少、産業衰退問題の可視化</li> <li>5 卒論でよく使うSD法心理テスト結果の平均値の検定（t検定）・ヒトの異なる行動間の関連性の検定（<math>\chi^2</math>乗検定）</li> <li>6 マーケティングでよく使われるコンジョイント分析、複数の項目・水準の顧客嗜好性を比較できる</li> </ol>				
内容	<p>GANs（敵対的生成ネットワーク）は「より本物に近い偽物を作成するネットワーク」と「偽物をみやぶろうとするネットワーク」を競合させることにより、われわれも実在している人物と見間違えるアイドル顔画像を簡単に作成できます。現代社会に大きな変革をもたらしているディープラーニングが生成するヒト顔合成画像、あるいは自分の顔がアニメ顔に変換した画像を見た時、われわれはどう反応するのかを心理テストしてみませんか？ディープラーニングの理論は学習せず、実際にソースコードを実行し画像を生成します。むずかしいことはひとつもなく簡単です。また、スマホで撮影した身近な風景や料理を審美的に変換、あるいは名画スタイルに変換、クリエイティブな演習を体験。</p> <p>一方「われわれが日頃体験する3D」は擬似3D（3D風に見えるもの）であり本物の3Dではありません。唯一ホロレンズを介して見るものがわれわれの脳内に3Dを作成し、目の前の空間に存在させます（これは脳科学のアプリケーションです！）。ホロレンズを使ったさまざまなアプリケーションを体験しましょう。地域社会経済を可視化できるシステム、その他卒論でよく使う心理テスト、統計解析手法を体験します。以上全て一学期の応用ゼミで体験可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大きい-小さい、明るい-くらい、はっきりとした-ぼんやりとしたのような形容詞対でヒトの反応をテストするSD法</li> <li>・ことなる処理（例えば2Dと3Dとか）に対する上記のヒトの感じ方などに差を与えるかを統計的に解析するt検定（一対の標本の平均値の検定）</li> <li>・ヒトの異なる行動や性格項目の関連性をみいだす<math>\chi^2</math>検定-オシャレな人は他人愛より自己愛が強い！？</li> <li>・レストランを開業する場合、複雑な顧客の嗜好性を比較できるコンジョイント分析によるマーケティング</li> </ul> <p>講義およびノートPCを使用した演習形式  ディープラーニング体験はすでに実行コードが組み込まれたファイルを配布して各自のPC上で実行します（簡単です）  藤田晴啓ゼミナールの3年生TA2名が皆さんの作業やわからないことを丁寧に補佐し、毎回のゼミナールは楽しく体験できます</p>				

学修到達目標	ディープラーニングモデルによる人工のヒト顔合成・その他画像合成ができる ヒト合成顔画像を含むディープラーニングコンテンツで心理テストができる ホロレンズによる真の3D体験とコンテンツ作成ができる 地域社会や経済の分析を実行できる 卒論で使用する多様な統計解析ができる
実務経験との関連性	ホロレンズとディープラーニングのワークショップを マレーシア国、ペトロナス工科大学にて2019年9月に本学学生の 協力を得て、相手大学教員・大学院生向けに2週間実施しました

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	毎回のゼミナール準備や資料の読解で2時間以上の予習をします
【復習】時間・内容	毎回のゼミナールで実習したディープラーニングや解析の復習を2時間以上

成績評価	
評価基準・方法	個人課題6題程度：80% ホロレンズコンテンツは他グループが評価：20%
フィードバック方法	人工画像合成に模範や解答はありません。 われわれの感性にうたえるものですので、参加者全員で講評する機会を設けます

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	実習、実技、実験、フィールドワーク

教科書/参考書	テキストは使用せず資料等配布します
---------	-------------------

受講上の留意点等	<p>ビジネスイノベーションにデータサイエンスは不可欠、経営学科だからこそ学習・マスターする必要があります。 グループワーク中心なので無断欠席は厳禁。他のメンバーに迷惑をかけるので可能な限り欠席をしないでください。 レポートは他人のものを流用することは厳禁、この場合誰が流用したかは関係なしに、極似レポート提出者全員単位を落とすことになるので、気をつけてください。</p>
JABEE	

科目名	応用ゼミナール2	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	山下 功		実務経験の有無		○
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-32-B-2-410037	経営情報学部C：情報や情報システムの利活用方法を習得し、仕事や生活に活用できること			
授業の目的・テーマ	Excel活用術 (必携パソコンを使って、Microsoft Excelを活用する方法を学習します。応用ゼミナール1と2は同じ授業内容です。)				
内容	<p>Microsoft ExcelやLibreOffice Calcなどの表計算ソフトウェアは、様々な組織の業務を効率化するために広く利用されています。また、反復的かつ高速に計算ができるため、会計に関する処理にも適しています。この授業を履修することによって、様々な業務に役立つMicrosoft Excelの使い方を修得することができます。</p> <p>【主な授業内容】  Microsoft Excelの基本的な技法  ・様々な集計表の作成  ・数値や文字列の操作  ・入力の工夫と簡略化  ・エラーチェックの方法  ・定型メッセージを表示する  ・データベースとして使用する  Microsoft Excelを使用した簡単な会計処理  ・小遣い帳と家計簿  ・金利計算  ・減価償却  ・商品有高帳  Microsoft Excelの業務への応用  ・テキストデータの活用  ・他人に配慮したフォームの作成</p>				

学修到達目標	Microsoft Excelの基本的な技法を修得し、業務へ応用することができる。 Microsoft Excelで簡単な会計処理ができる。
実務経験との関連性	上場企業で経理業務・会計情報システム構築などに従事した教員が、実務における表計算ソフトウェアの活用方法を指導します。

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	Microsoft Excelに関する予習内容を、必要に応じて教員が指示します。 90分の授業1回当たり、予習と復習を合わせて180分が必要です。
【復習】時間・内容	授業内容に関連する課題などを教員が指示します。 90分の授業1回当たり、予習と復習を合わせて180分が必要です。

成績評価	
評価基準・方法	課題や授業への取り組みなどに点数をつけて評価します。
フィードバック方法	課題提出後に模範解答を示し、講評を行います。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	実習、実技、実験、フィールドワーク

教科書/参考書	教科書を使用しません。必要に応じて資料を配布します。
---------	----------------------------

受講上の留意点等	<p>Microsoft Excelをもっと使えるようになりたい、という強い意志がある学生を求めています。 なお、この授業に必要な会計の知識を授業中に説明しますので、「簿記基礎」「財務会計論」「管理会計論」を履修していなくても問題ありません。</p>
JABEE	



科目名	応用ゼミナール2	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	土屋 翔	実務経験の有無		×	
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-32-B-2-410037	経営情報学部D：自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表できること			
授業の目的・テーマ	地域発展における飲食経営の役割—実店舗の経営改善を起点として—				
内容	<p>本ゼミナールは以下の大まかな内容で展開していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 実店舗周辺の地域における現状調査</li> <li>2) 飲食店の地域における役割を考察</li> <li>3) 地域発展のための飲食店における経営改善を提案</li> </ol> <p>以上の内容をグループ単位で調査、考察、提案を行ってもらおう。 相互で意見を出し合い、より良い経営改善案を出してもらおう。</p> <p>テーマを出し、テーマに沿って調査を行ってもらおう。ほとんどが、グループワークになることを前もって理解して欲しい。 また、場合によっては応用ゼミナールの時間を変更して土、日（1、2回を想定）に実店舗見学に行く可能性がある。</p>				

学修到達目標	実践的な経営学に関する力を身につけることができる。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	予習に2時間。
【復習】時間・内容	復習に2時間。

成績評価	
評価基準・方法	成果物（50%）、授業貢献度（50%）
フィードバック方法	随時PCにてフィードバックする。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	PBL（課題解決型学習）／反転学習／ディスカッション、ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／実習、実技、実験、フィールドワーク

教科書/参考書	特になし。
---------	-------

受講上の留意点等	<p>薄々気づいている学生もいると思いますが、少し厳しいゼミナルだと思います。 自身の考えを多く求めるので、受動的な学生はオススメできません。 多くの視点を得たい、経営学を知りたいという学生にオススメです。</p> <p>講義時間外でのグループワークがあります。</p>
JABEE	

科目名	応用ゼミナール2	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	藤瀬 武彦		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-32-B-2-410037	経営情報学部D：自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表できること			
授業の目的・テーマ	日本の少子高齢社会で体育・スポーツはどう貢献できるかを考える。				
内容	<p>日本は近い将来に約3人に1人が高齢者という極端な少子高齢社会を迎え（2019年の高齢化率28.4%）、医療費や介護費などが高騰して国民の負担が非常に重くなることが予想される（2019年の国民医療費は約43兆6千億円）。従って、各々が健康体づくり（介護予防を含む）に関する知識をもつことが必要であり、またその実践が重要であることは言うまでもない。この授業では健康体づくりに関する身体機能、食事、運動などについて学ぶとともに体力測定などを実施し、また運動・スポーツ施設やその運営・経営についても考え、今日の超高齢社会や情報社会で活躍するための知識を身に付ける。その主な内容は以下に示した通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① ガイダンス・・・授業について、超高齢社会における医療と介護の現状① -世界的投資家の「お金の流れで読む日本と世界の未来」から-</li> <li>② 超高齢社会における医療と介護の現状②-健康体づくりの実態-</li> <li>③ 運動施設の管理運営について-指定管理者制度と公共・民間施設の経営-</li> <li>④ 運動・スポーツ施設の紹介①（学生の発表）</li> <li>⑤ 運動・スポーツ施設の紹介②（学生の発表）</li> <li>⑥ 運動・スポーツ施設の紹介③（学生の発表）</li> <li>⑦ 運動・スポーツ施設の紹介④（学生の発表）</li> <li>⑧ 民間フィットネスクラブの経営と運動指導者の資格について</li> <li>⑨ 教育機関の運動・スポーツ施設と運営について-競技スポーツとトレーニング-</li> <li>⑩ 運動・スポーツ施設の経営①（学生の発表）</li> <li>⑪ 運動・スポーツ施設の経営②（学生の発表）</li> <li>⑫ 運動・スポーツ施設の経営③（学生の発表）</li> <li>⑬ 運動・スポーツ施設の経営④（学生の発表）</li> <li>⑭ 外国人経営者の日本人経営者論</li> <li>⑮ ヘルスケアビジネス及びまとめ</li> </ol>				

学修到達目標	将来、自分が会社経営あるいは組織運営などを行うときにこの経験を参考にできる。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	1. 超高齢社会とは 2. 中高年者の運動・トレーニングの実態 3. 公共・民間・教育機関の運動施設を検索する① 4. 公共・民間・教育機関の公共運動施設を検索する② 5. 公共・民間・教育機関の運動施設を検索する③ 6. 公共・民間・教育機関の運動施設を検索する④ 7. 運動スポーツ指導の資格① 8. 教育機関の運動・スポーツ施設を検索する 9. 運動スポーツ施設の経営計画の資料作成① 10. 運動スポーツ施設の経営計画の資料作成② 11. 運動スポーツ施設の経営計画の資料作成③
【復習】時間・内容	1. 日本の財政逼迫を緩和する方法を考える 2. サルコペニアとその予防改善方法 3. 運動施設紹介の資料作成① 4. 運動施設紹介の資料作成②と発表者の評価① 5. 運動施設紹介の資料作成③と発表者の評価② 6. 運動施設紹介の資料作成④と発表者の評価③ 7. 発表者の評価④ 8. 運営資金の調達方法 9. 運動スポーツ施設の経営計画の資料作成① 10. 運動施設経営の発表者の評価① 11. 運動施設経営の発表者の評価②

成績評価	
評価基準・方法	演習点60点及び課題点40点の合計100点で評価する。
フィードバック方法	質問等があれば可能な限り随時対応する。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	実習、実技、実験、フィールドワーク

教科書/参考書	PowerPointを使用して提示します。
---------	-----------------------

受講上の留意点等	特にスポーツ・フィットネス業界に興味のある学生は就職活動時に役に立つと思います。 PowerPointを用いてプレゼンテーションを行ってもらいます。
JABEE	